

## 同志社大学「次世代研究者」プロフィール

2020年7月現在

基本情報						
フリガナ 氏名	ムラカミ 村上	サオリ 紗央里	性別	女	生年	
氏名(英字)	MURAKAMI	Saori	メールアドレス			
学歴	2006年4月 同志社女子大学学芸学部情報メディア学科 入学 2010年3月 同志社女子大学現代社会学部社会システム学科 卒業 2010年4月 同志社大学総合政策科学研究科総合政策科学専攻 博士課程(前期課程)入学 2012年3月 同志社大学総合政策科学研究科総合政策科学専攻 博士課程(前期課程)修了 2012年4月 同志社大学総合政策科学研究科総合政策科学専攻 博士課程(後期課程)(ソーシャル・イノベーション研究コース)入学 2015年3月 同志社大学総合政策科学研究科総合政策科学専攻 博士課程(後期課程)(ソーシャル・イノベーション研究コース)修了 2015年4月 同志社大学総合政策科学研究科総合政策科学専攻 博士課程(後期課程)(公共政策コース)入学 2020年3月 同志社大学総合政策科学研究科総合政策科学専攻 博士課程(後期課程)(公共政策コース)修了					
職歴	2015年4月-2017年3月 龍谷大学政策学部地域協働総合センターRA 2020年4月-現在 同志社大学研究開発推進機構 特別任用助手(有期研究員)					
指導教員	新川 達郎 教授	取得学位	博士(政策科学)	専修外国語・読解可能な外国語	英語	
研究活動						
研究分野	公共政策学教育					
科研費分類による研究分野	教育学およびその関連分野					
研究テーマ	公共政策学教育の初年次教育における「政策問題への問題意識」の涵養					
研究概要	現代の高等教育では、各学問分野の質保証が求められ、公共政策学分野においても教育の質保証が目指されている。本研究においては、公共政策学教育のカリキュラムの中の初年次教育において「政策問題への問題意識」はどのように涵養することができるのかについて体系的に明らかにすることを目的としている。具体的には、公共政策系学部23大学を対象とした公開情報調査及び訪問調査研究、授業デザインとアセスメントに基づく教育実践研究を効果的に組み合わせて進める。本研究によって、公共政策学教育の体系化の前進と、「政策問題への問題意識」の涵養に焦点を置いた初年次教育科目の教授法を提供することを目指す。					
研究業績	◆学位論文 河井紗央里「学士課程教育における公共政策学教育の現状と課題ーディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラム、PBLをめぐってー」(同志社大学博士論文)2020年3月 ◆著書 嘉田由紀子・新川達郎・村上紗央里編著(2017)『レイチェル・カーソンに学ぶ現代環境論』法律文化社(担当執筆箇所「第1章 レイチェル・カーソンの生涯と思い」(pp.2-14)、「第2章 レイチェル・カーソンから広がる新たな教育実践」(pp.15-31)、「第12章 教育実践の成果と評価」(pp.166-184)、共著「第13章 アクティブ・ラーニングによる公共政策学教育導入教育の可能性」(pp.185-202)) ◆査読論文 1. 村上紗央里・新川達郎(2015)「アクティブ・ラーニングによる協働型環境教育の実証研究ー同志社大学政策学部における寄付講座を事例に」、『同志社政策科学研究』、16巻(2号)、pp.73-89。 2. 河井紗央里(2018)「公共政策学教育におけるプロジェクト・ベースド・ラーニングの意義ー5大学の政策系学部の公開情報をもとに」、『同志社政策科学研究』、20巻(1号)、pp.131-146。 3. 河井紗央里・新川達郎(2019)「学士課程教育における公共政策学教育の実質化のためにーディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーをめぐって」、『同志社政策科学研究』、21巻(1号)、pp.63-76。 4. 河井紗央里・新川達郎(2020)「公共政策学教育におけるカリキュラムの実態ー京都市の公共政策系学部3大学を事例に」、『同志社政策科学研究』、21 巻(2 号)、pp.195-210。					
所属学会	日本公共政策学会					
キャリア関連						
志望進路	教員(大学)、研究員(大学)、起業					
進路						
自己PR	R・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』を読み、感性の大切さを実践を通じて伝えることを目指して大学院に進学しました。回り道をしましたが、現在は、社会がよいものになるように教育実践及びその研究に取り組み、公共政策学教育、市民性教育に関心を持ち研究を進めております。					
取得資格等	博物館学芸員					